

今日のわだい

- [1面] 新潟医療センター開設1年
- [2面] 北厚労・分会横断交流集会 JAL「整理解雇」許すな!
- [3面] 西プロ韓国医療視察ツアー



全 国 労 働 組 合 連 合 会
 厚 生 連
 〒110- 東京都台東区入谷
 0013 1-9-5
 TEL 03-3874-3591
 FAX 03-3874-3593
 発行日 毎月 20日
 定 価 30円

厚生連になって1年 新潟医療センター 厚生連本来の姿をめざして



開設1年の新潟医療センター

新年号企画として、移譲・新規開設から1年が経過した新潟県厚生連の新潟医療センター(以下:医療センター)が、厚生連としてどのように変わったのか、また労働組合としてどう関わってきたのか、訪問取材を行ってきました。

新潟医療センターとは

医療センターは、ご存じのように一昨年10月に当時の新潟こぼり病院から新潟県厚生連に移譲され、県厚生連としては17番目となる病院です。

その際、労使で確認された役割は、①縦に長い新潟県において、県都新潟市を中心とした医療・保健・福祉の一体的サービスに寄与すること、②新潟大学との連携を強固にし、医師充足を図ること、③下越地区のセンター病院として経営基盤の安定を図ること、④センター病院としての機能拡充を図り厚生連ネットワークの中心となることを目指すこと。

指したものでした。新潟大学との連携においては、医師がいなくては成り立たない医療の現場において、今後の連携体制に期待を持って取り組んでいるそうです。

労働組合として

旧新潟こぼり病院時代、労働組合はほとんど活動がみられなかったのですが、新潟県厚生連労働組合(新厚労)は、従来より発行している「そよ風」などの教宣活動を通して、職員や患者への啓蒙活動とともに患者と対等の立場を目指して取り組んでいます。取材時には実際の支部内で発行している機関紙を見ることができましたが、その中には医療

センターが「今、何を考えているのか」、その方向性を知るには十二分なもので、これから考える支部役員が気が知れるものでした。

新潟県厚生連は...

今回の取材では、新厚労のはからいで、県厚生連の堀内相談役と懇談することができました。相談役は、労働組合の執行委員長から経営へ移った経緯もあり、「国籍は組合、現住所は会」といわれるほど労働組合の存在意義やその役割を理解しており、「労使の協力なくしては病院は成り立たない」とはつきりとしたスタンスを持たれていました。

新潟県では労使ともに「県内の医療に責任を持つ」という意見が合致しており、今回の経営移譲に関しても、「医療を守るためには当然」とした組合側と経営側の方針があったから成し得たということでした。

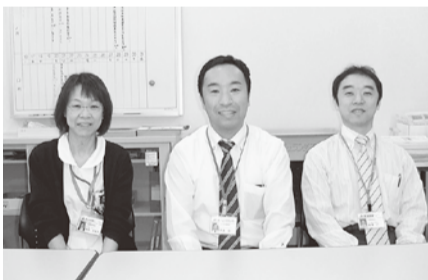


県厚生連との懇談で(前列、右側が堀内相談役)

旧こぼり病院の職員は

移譲にあたっては、ほとんどの職員が厚生連に再雇用されています。旧新潟こぼり病院からの職員にも直接話を聞きました。

現状を聞くと、「経営に透明性がある」、「問題意識が共



医療センター支部のみなさん

また支部ニュースについては、「患者にも分かりやすく、職員にも分かりやすい」などこれまた評価する声がかげられました。なかには、「転勤があるとのこと」という心配する声の中で、「このような経営方針をもっていれば安心だし、他の医療機関もみてみたい」という前向きな姿勢まで聞かれました。

また病院の廊下などですれ違う職員の方々も真剣な眼差しの中で、時折みられる笑顔が印象的でした。

地域医療を守るための通過点として

新厚労佐藤委員長は、「労働組合としても新潟県内の医療に責任を持つ」と話していましたが、新潟県厚生連としては、医療センターの移譲はあくまでもまだまだ通過点だと言っています。県内の地域医療を総合的に鑑みる労働組合および厚生連の姿勢には、厚生連に与えられた地域医療堅持の本来の姿が見られました。

このように書いていると新潟県厚生連には何も問題がないように思われがちですが、やはり労働組合としては、様々な検討すべき項目や要求があります。その中身については、必ず対案を出し、労使交渉がしっかりとされた「政策的対峙」となるようなものになるように、これからは「医



全厚労ホームページを開設

全厚労では今年度方針に掲げていたホームページを昨年12月に正式に開設しました。まだまだ不十分ですが、皆さん方の活動交流ができるよう運営に努めます。ご意見・ご要望もお待ちしております。

URL://www.zenkouro.org

YSFJ

取材班は、当初「新潟県はこんなに病院数を増やして何を考えているんだろう」という疑問をもっていました。現場の方々の生の声を聞いて、地域医療を守るといのは形だけでなく、心(信念)が重要ということを感じました。また今年度の全厚労運動方針でもある「地域医療と雇用を守る、真の『労使協同』関係をつくる」が、現在進行形でなされていきました。最後になりますが、師走の忙しい中、快く取材に対応して頂いた新厚労および新潟県厚生連の皆様には、紙面を借りて感謝致します。

(教宣部:岡村・荒田)



病院検査室で働く人たち



移譲後、行われた耐震工事

北厚労 職場の垣根超えて、学び、楽しんだ 分会横断交流集会「ほっころード」



交流会を盛り上げた司会者の二人

北厚労では、昨年11月20日、これまで組合員の交流を図るために、長年続けてきた「北厚労カップソフトバレーボール大会」に代わって、スポーツありきでなくても交流と親睦を深められるのが可能、と考え、初めて「分会横断交流集会」と銘打った集会を開きました。17分会1支部の229名が参加しました。

交流会では、第1部が3つのテーマ「北厚労の組織とは」「労組の問題解決のプロセス」「諸権利獲得の歴史的経緯」について学習会を行った後、第2部で各々10名ほどのグループに分かれて、「働きやすい職場にするために、自分たちができること」をテーマに話し合いました。

離職に至る理由を出し合いながら、どうしたら改善できるかを話あったり、職場の雰囲気や、職に、「新人の」ところを良いところを記載するグッズドカードを渡したり、誕生日にカードを贈っている「上司、先輩、後輩がお互いの立場を理解してあげる。休みやすい環境をつくる、自分の新人時代を思い出しながら、指導・育成をする」など、グループ毎に多種多様に話が盛り上がりました。



ケイタイゲームで盛り上がる交流会



真剣に答えを探す参加者



見事、コンペを勝ち上がった「猪木」

第3部からは楽しいモーニングゲーム『ゲータイゴング』北厚労的クイズ220人に聞きました！。設問への回答を携帯電話を利用して、順位をグループで予想するというゲーム

第4部の懇親会では、食事とお酒を楽しみながら、この「交流集会」のサブタイトルの決定に向け、中執5名がブレゼンテーション。越田中執のパフォーマン

で、総合司会の松浦書記次と石川中執のコンビによる絶妙なトークで進行し、白熱しました。

長と石川中執のコンビによる絶妙なトークで進行し、白熱しました。

ケイタイゲームで盛り上がる交流会

スを含めた「北厚労のこれからの（道）を担うであろうメンバーが集まり、北厚労のこれから（道）を考える行事となるように」との意味を込めた「ほっころード」に決定しました。（北厚労より）

こんなにある「放漫経営」や癒着

- ドル「先物買い」の損失 11年で約2200億円
- HSST(リニア)開発 52億円投資し約1億で売却
- 本社ビル 500億円かけて200億円で売却
- 飛行船事業 9億円の損失を11億円かけて精算
- ホテル・リゾート事業 970億円の損失
- 寮の建設 24億円評価の土地を152億で購入、105億を建設に注ぎ込み、撤退

(新聞報道等より)

不当なJAL「整理解雇」は許されない 「真の再生」につながる解決策を

昨年12月、日本航空（JAL）は、人員整理計画未達として、最終的にパイロットとキャビンアテンダント合わせて202名に「整理解雇」を通知しました。現在140人余が提訴の予定で、労組や市民団体など支援する「国民支援共闘会議」も発足しています。巷では「税金を投入しているのだから」「再建には人件費削減は仕方ない」という声もありますが、本当に「解雇」は避けられない状況だったのでしようか。

整理解雇4要件を満たさざり押し

まず「整理解雇」が法的に認められるには、4つの要件を満たす必要があります。①解雇が避けられない合理性があるか、②解雇を避けるための努力が尽くされたか、③対象者の選定が合理的・公平であったか、④説明・協議など手続きが尽くされたか、です。

JALは「再建計画」に沿って希望退職を募ってきていましたが、11月末時点で希望人員1615人を上回る1688人が退職に際していたにも関わらず、途中から、「稼働人員」という考え方を持ち出し、育休中や夜勤免除者をゼロ人とカウントしたり、新たな基準で削減数が足りない」と主張してきました。しかも対象者に対して、空白の勤務表を提示するなど強引に仕事を奪ってきていました。経営状況は、4～11月期で計画を上回る1460億円（計画年間250億円）の営業収益を出しています。労組でも一時帰休やワークシェアリングの提案を行ったものの協議すら拒否されてきました。

また年齢差別や企業再生支援機構の争議介入について、ILO条約違反として、ILOは政府への調停にも動いています。年齢差別には、「あり得ないこと」と驚きを持って受け止められ、抗議の動きも広がっています。

JAL破綻の真の原因は

そもそもJALが「破綻」に至った大元の原因は、人件費ではありません。既にJALの人件費比率は、15%と他の航空会社と比べても低い実態にあります。日本の航空行政による地方空港の乱立と不採算路線

また経営による無謀な投資や政界との癒着など、数え切れないような放漫経営が背景にあります（表）。これらのことは、いづれも現場の労働者の責任ではないことは明らかです。

人を大切にすることが大事では

今回の解雇者には、9・11アメリカテロ事件以降に、爆発物を発見・処理したベテランCAや、様々なトラブルを経験した人たちが多く含まれています。安全が第一である航空において、もつとも重視されるべき経験を切り捨てるJAL再生策は、逆に顧客の不安を増すものです。ましてやJALのような大企業が法を犯して、労働者を使い捨てるようなことは許せません。働く仲間としての支援と連帯が求められています。

への運行の押しつけ、アメリカの要求で100機以上ものジャンボ機を購入させられたことなど、政治によって歪められてきました。また経営による無謀な投資や政界との癒着など、数え切れないような放漫経営が背景にあります（表）。これらのことは、いづれも現場の労働者の責任ではないことは明らかです。



12月21日、JAL本社前での行動



Q 生理休暇を取ったところ皆勤手当が支給されなかった

「生理休暇の取得を著しく困難とし、労働基準法が女子労働者の保護を目的として生理



最高裁判決では「労働協約等に定めがない限り無給」であることを前提としたうえで、「生理休暇の取得を著しく困難とし、労働基準法が女子労働者の保護を目的として生理

休業について特に規定を設けた主旨を失わせると認められるもの」については違反としており、生理休暇取得を事実上抑制する効果を持つ場合（たとえば精勤手当が高額）については違法になります。労使交渉によって生理休暇の有給化や手当の支給を労働協約等に定めるのが一番の解決方法であることは言うまでもありません。

A

生理休暇取得を事実上抑制する場合は認められません

職場で大切な権利をクイズ形式で学んでいきます

よくわかる
労基法クイズ
第22回



「楽しく仕事」をテーマに

西日本ブロックで「韓国医療視察」

全厚労西日本ブロックでは、11月21日～24日、3泊4日の日程で、「韓国医療視察ツアー」を行い、総勢31名が参加しました。

2日目の22日（月）にメインの病院視察と韓国医療保健労働組合との懇談。視察に伺った病院は、ソウル市内の産婦人科で有名な「第一（チェイル）病院」でした。

病院視察の概要は二人の感想文に譲りますが、午後からは韓国の医療産業別労働組合である「韓国保健医療労組」との懇談でした。96年に結成された全国組織で組織数は4万人。「お金

参加者の感想

「よりのちを」をスローガンに、14日間ストなど労働条件改善と社会保障のたかひを進めてきた歴史と、元気な若い人たちの組合という感じが印象的でした。

少子化といわれる韓国で、113床ある新生児室は常にほぼ満床という、人気ある病院でした。正常分娩だと2泊3日という回転の速さにも驚かされました。

他にも小児科・内科も対象にしており、女性患者が多い面からも、細やかな配慮がされていました。一見とても恵まれた病院にも見えませんが、内情は厳しい現状があります。

日本以上に看護師の人員確保が厳しいこと、あの有名なサムスン経営から独立した事で、経営困難していること…など、今抱えている問題をいろいろと教えてもらいました。そんな中で、全職員が組合員



病院のスタッフとともに



100ベッド以上がならぶ新生児室

新生児室では赤ちゃんのくるみ方に驚きました。日本では一般的にゆるく包むことが多いと思いますが、かなりきつめにきつちりと包まれていました。産婦人科病棟では産後坐浴ができる設備があり、日本ではあまりしていないことを伝えると、「重要でしょ!?!」と驚かれました。チェイル病院の労組は、ユニオンショ

であること、そして「自分たちの病院である」という意識の高さにはとても感銘を受けました。国は違っても、自分たちのいる環境をより良くしようと、団結して取り組む姿勢は一緒なんだと思いました。

2、3日目は非武装地帯や民族博物館、南大門市場観光を行い、韓国の文化にも触れることができました。もちろん韓国のグルメも堪能してきました(●、●、●)最終日には、ややキムチの赤色を見るのに飽きてきました(;>、>)全体を通して、他の地域の組合員の方とも交流もでき、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

今回の学びが今後につなげられるよう、私の課題を見つけていこうと思います。(広厚労・細谷直美)



病棟に飾られた魔除けのおまじない

韓国医療事情や看護師の状況などについてはほとんど知らないまま参加を決めました。今回の視察にあり、全厚労や同行の皆様には大変お世話になりました。また高厚労と病棟の皆様には、快く送り出していただき、感謝しています。ありがとうございました。(高厚労・波除美千子)

帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第47回は新潟・茨城にお願いをしました。



新潟 白井康博さん

新潟県厚生連労組の副執行委員長(兼阿賀野支部長)、白井康博さんを紹介。出身は佐渡で非常に明るい性格の診療放射線技師長です。

現在は昨年10月に公設民営でスタートした阿賀野市の水原郷病院に単身赴任し、支部長としても日々奮闘しています。

趣味はスポーツ観戦で、休日は家族とドライブに行ったり、ペットと遊んだりして過ごしています。

新潟の提案型運動をこれからも牽引してくれるものと期待しています。

今回、茨城からは、西南支部医事課勤務の鈴木孝弘さんをご紹介します。鈴木君は、一昨年から茨厚労青年部の部長を務め、様々な組合活動や集会にも積極的に参加しています。そのにじみ出す優しい人柄で、患者さんだけでなく周りのみんなを癒してくれます。おっとりしているように見えませんが!、反面、仕事も組合もやることはピシッときめる男らしさも持っているところが鈴木君の魅力です。こんな好青年、放っておいたら損ですよ!鈴木君のこれからの大いに期待しています!



茨城 鈴木孝弘さん

みんなで作る大きな安心 医労連共済

医労連共済に寄せられた組合員の声をアンケートからご紹介します。

◇職員健診で以前から胆のうポリープがあるといわれてきました。今年壁が厚くなってきたと指摘され、すぐにCT・MRI・腸を含む検査を受けました。検査結果はガンで、2月に手術を行いました。まさか自分がガンになると思いもよみませんでした。治療の経過も良く、4月から仕事に就くことができました。入院・休業の間給料が削られる中、共済給付を頂き本当に助かりました。働く仲間にはもっと宣伝を行い、多くの人が加入をすすめてほしいと思います。

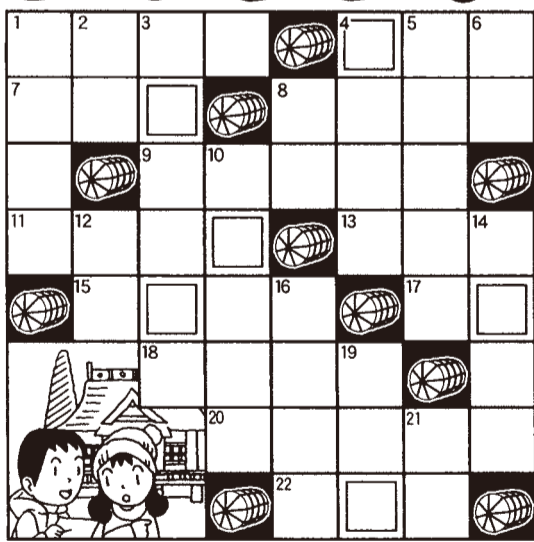
◇昨年息子が事故をおこし、入院した時には大変な思いをしました。相手が3台もあり途方に迷いました。今回給付があり、胸をホッとさせておりました。本当にありがとうございます。これからも一生懸命働き、頑張つてかけつけたいと思います。

◇組合活動中に怪我をしてしまい、給付を受けさせて頂くことになりました。今回の様にお金を頂けるといふことで、また仕事で頑張ろうという気になります。本当にありがとうございます。

◇不眠でうつ病と診断され、4ヵ月半休んでいました。健康でいることのありがたさを身にしみて感じ、親身になって助けて下さった方や心配して下さった方に感謝しています。月々小額ながら医労連共済をかけていたのですが、思いがけず大きな金額を頂け、とてもうれしく思います。同僚も共済はどんな中身だったのか知りたいたい興味を持ち、新しく入職した職員は組合に入ると言ってくれました。



ザクロスワード



答

- 21 19 16 14 12 10 8 6 5 4 3 2 1
- カードゲームの最高傑作
- カレーをつけて食べます
- 弾力をもったプラスチックなどのヘアバンド
- 見かけの姿、外見
- アリの習性
- 今の午前・午後2時。江戸時代は...
- 牛などの動物を数える語
- フライデー
- 小さいふりがな
- 条約についての国の最終手続き
- 幻灯や影絵のこと
- はぶくこと。敬称...
- 大正昭和初期、流行のファッションに身を包んだ若い男性をこう呼びました

【問題】タテ・ヨコのカギを解いてクロスワードを完成させてください。二重ワクの文字をうまくつなぐと、答えの言葉ができます。中の絵がヒントです。(作)野上和彦

ヨコのカギ

- 1 真っ赤なお鼻でソリをけん引
- 4 筒に矢を入れて「フッ！」
- 7 お昼ご飯
- 8 逆立ちのこと
- 9 雪で作った2011年の干支
- 11 和名はセイヨウスモモ
- 13 沈もうとしている太陽
- 15 ほほえむこと
- 17 フキやセロリに目立つ繊維
- 18 おみくじでは「転居」をこう読むことがあります
- 20 仏教の四天王では多聞天
- 22 笑うと頬にできるくぼみ

タテのカギ

- 1 カードゲームの最高傑作
- 2 カレーをつけて食べます
- 3 弾力をもったプラスチックなどのヘアバンド
- 4 見かけの姿、外見
- 5 アリの習性
- 6 今の午前・午後2時。江戸時代は...
- 7 牛などの動物を数える語
- 8 フライデー
- 9 小さいふりがな
- 10 条約についての国の最終手続き
- 11 幻灯や影絵のこと
- 12 はぶくこと。敬称...
- 13 大正昭和初期、流行のファッションに身を包んだ若い男性をこう呼びました

読者の声

夜勤の有害性についての記事は大変興味深く、特に交代制勤務は発がん性リスクが高い危険な職種と認定されていると知り勉強になりました。できれば日勤深夜を半日勤深夜にする。また50歳になったら夜勤を減らすなどの措置をして健康で定年まで働き続けられる職場にしたいものです。(秋田)

「夜勤の有害性」を読み、いつも夜勤前に仮眠をとるのは意味が無いことがわかり、いつもの様に起きて夜勤をしてみようと思いましたが、仮眠をとっても明け自宅に戻るまでが眠気のピークで困っています(事故になる一歩手前)。本場に寝溜めは決して疲労が取りません。そのとおりだと思いました。(静岡)

夜勤の有害性の記事は大変興味深い内容でした。私の職場ではどうしても夜勤の偏りがあり、1週間に3回も当たり前...年齢のせいと思つていた感情の変動や、やや肥満(?)のための循環器障害。すでに私の中に住みついてしまいました。このまま同じ条件で働き続けて良いのでしょうか...考えさせられました。(福島)

当選者10名様に図書券を差し上げます。クロスワードパズルの答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。(11月号の答え:イモニカイ)